



錦江町役場 総務課
山王 洋介 財政係長

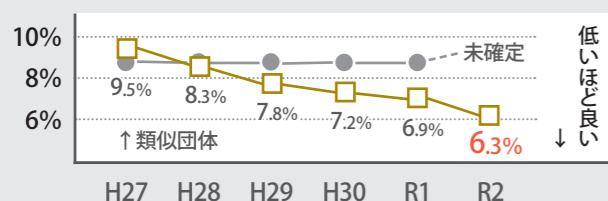
「1」に近いほど自力があり、低いほど国への依存度が高いとされる財政力指数は0.19と類似団体や県内の自治体平均と比べても低水準。まちの体力を表すとも言われ、錦江町はかなり国への依存が高い状況と言えます。また、人件費などの必要な支出を、比較的安定した収入で割り出した経常収支比率は87%。80%以上は黄色信号と言われ、自由に使えるお金が少ない、いわゆる硬直化している状態が続いています。家計の場合、どんなに「火の車」でも食費や光熱費は簡単に削れず、家や車のローン、学費といった必ず必要な支払いもあります。町も同じように人件費や公債費といった毎年の支出が避けられない経費があり、これらが一般財源に占める割合を経常収支比率といい、財政の健全度を計るひとつの目安となります。錦江町は若干の改善が見られるものの、基準値の80%を超えていることから財政構造に弾力性がなく硬直した状態。依然として財政にゆとりがなく、

改善に向けた自主財源確保と歳出削減に取り組む必要があります。

なにを残し、なにを削るか。要望ではなく将来を描く選択へ。

まちの財政が健全かどうか判断する健全化判断比率の4指標は基準を上回らないものの、歳入の8割以上を依存財源に頼り繰入金を除くと自主財源は1割未満。交付税の合併特例措置も終わり今後は人口規模相応の交付となりますが、推計によると人口は減少の一途を辿る予測です。まちづくりは住民主体。財源には限りがあり、必要なことは情報を共有して将来を想定し、意思を的確に反映すること。あれもこれも欲しい「要望」ではなく、判断材料を得たうえで「選択」が迫られています。財政破綻は対岸の火事ではありません。まちの将来を左右する選択は、私たち一人ひとりの責任なのです。

財政力指数「0.19」という現実

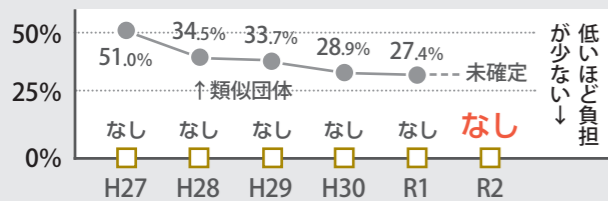


実質公債費比率 / +6.3%

借金返済の負担度を判断。20%を超えると地方債が制限されます。錦江町は減少が続き類似団体と比較しても低い数値で推移しているため良好。

将来支払っていく負担を数値化し、財政を圧迫する可能性度合いを表します。錦江町はマイナスで「数値なし」となり健全な状態を保っています。

将来負担比率 / 数値なし



一般会計歳入

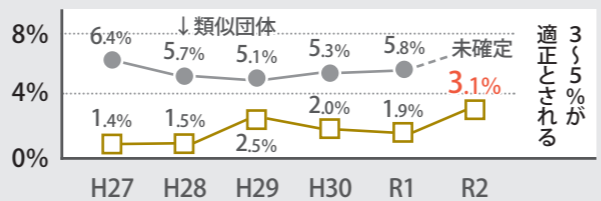
自	町税	6億 3,458万円
依	地方譲与税	8,645万円
依	地方消費税	1億 6,424万円
依	地方交付税	32億 6,334万円
自	使用手数料	8,379万円
依	国庫支出金	16億 4,000万円
依	県支出金	4億 6,977万円
自	繰入金ほか	6億 4,446万円
依	町債	6億 8,643万円

令和2年度 歳入 76億 7,306万円

8割以上も国や県の財源に依存

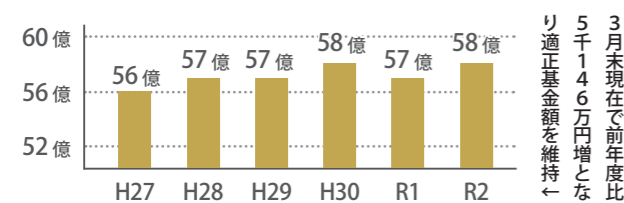
財政規模に対する収支割合で黒字はプラス、赤字はマイナス。3~5%が適正水準とされ錦江町は3.1%と改善傾向だが依存財源に頼っている状況。

+3.1% / 実質収支比率



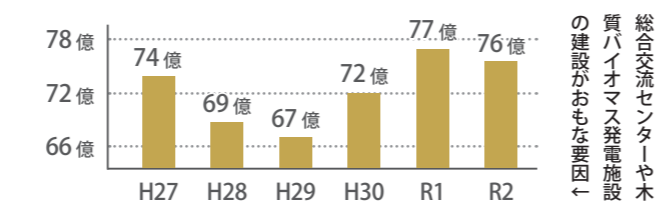
58億円 まちの貯金にあたる基金残高

急激な収入源や突発的な支出に対応するための基金は「まちの貯金」。ほかに庁舎や学校建設など特定の目的に向けて積み立てる場合もあり、年度末現在で約58億円の基金残高となっています。



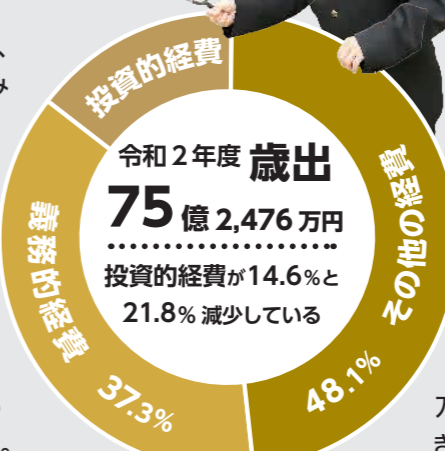
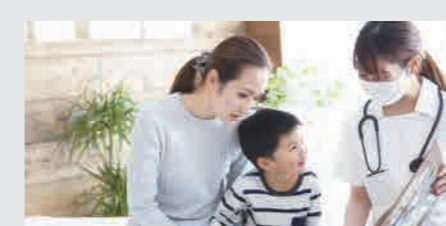
76億円 まちの借金にあたる町債

道路や施設を作る場合は多額の支出が必要になります。全額をまとめて払うには負担が大きすぎるため町債を発行して長期の分割払いをします。令和2年度末現在で約76億円となっています。



道路や施設整備、産業や観光振興、教育、子育て支援、医療や福祉、防災など住みやすい「まちづくり」を実現するための投資的経費。総合交流センター建設も終わり前年度比11億円の減。

児童福祉や社会福祉、老人福祉などに支出する扶助費のほか職員の人件費、町債の返済など制度的に支払いが義務化されている経費。全体に占める割合は前年度比で7.9%増えています。



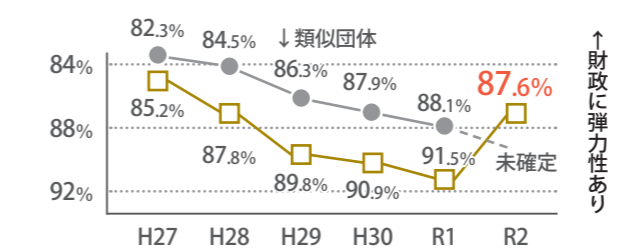
一般会計歳出(性質別)

義	人件費	10億 4,195万円
義	物件費	9億 7,032万円
義	維持補修費	3,807万円
義	扶助費	9億 2,978万円
義	補助費等	16億 5,098万円
義	公債費	8億 3,586万円
義	積立金	2億 7,091万円
義	繰入金ほか	6億 9,084万円
義	普通建設費	10億 9,605万円

委託料や消耗品などの物件費、負担金や各種団体への補助金がおもな支出です。新型コロナウイルス関連事業や1人10万円の特別定額給付金支給など影響が大きく補助費が前年度比で約8億円の増。

87.6 硬直度が分かる経常収支比率

数値が低いほど財政に余裕がある状態。80%以上は黄色信号で錦江町は87.6%と回復傾向ですが硬直した状態は変わらず弾力性がない状況です。



0.19 まちの体力を表す財政力指数

収入額を支出額で割った過去3年間の数値で表す財政力指数。「1」に近いほど自力があると言われ、数値が低いほど国への依存度が高いと言えます。錦江町は0.19と類似団体や県平均に比べても低い水準で推移。財政面での体力はかなり低い状態と言えます。

